バルセロナ日本語で聖書を読む会

月報第153号〔2017年11月〕

さあ、湖の向こう岸に渡ろう

ルカによる福音書 8章22節

『そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう。」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。』

＋‥＋

主の聖名を賛美します。 バルセロナ日本語で聖書を読む会の月報第153号をお送りします。今月はフランクフルトから矢吹牧師ご夫妻にお越しいただき、聖書の学びかたについて、ルカ福音書7章36節以下を読みながらお話いただきました。

― 主に香油を注ぐ ―　　矢吹 博師

ルカ7章36節以下には、あるファリサイ人の家に食事に招かれた主イエスに罪深い女が近づき、涙でイエスの足をぬらして髪の毛でぬぐい、香油を注いだことが伝えられていますが、これとよく似た記事は、マタイ福音書26章6-13節、マルコ福音書14章3-9節、ヨハネ福音書12章1-8節にもあります。ただしこれら3か所は、ルカの記事とは違う家庭に招かれたときのエピソードですので今日のテキストの並行記事とは言いかねます。それでも、どちらも高価な香油を主イエスにそそぎかけるという点が同じです。

香油は非常に高額なものなので、当時は若い女性が結婚の日の為に少しずつ貯めていくものだったようです。それではなぜ彼女たちはこれほど大切な香油を惜しげもなく主の足にそそいだのでしょうか。そもそも、ルカが「罪深い女」と説明する女性が、汚れた者を大変きらうファリサイ人の家になぜ入ってこられたのでしょうか。

これは当時、ラビ達の食事の席のような公的な集会が、食事に招かれていない人々にも公聴を許可することがよくあったようですのでそのためと思われます。この家にやってきた彼女は、皆が向けてくる汚物でも見るかのような視線をものともせず、まっすぐ主イエスだけを見つめ、彼の足元にひれ伏すのです。では女はなぜ涙を流したのでしょうか？なぜイエスの足元を涙でぬらすことをしたのでしょうか？なぜわざわざ香油を持ってここへやってきたのでしょうか？ 彼女の涙は憐みを請う涙なのか喜びの涙なのか。このように考えながら聖書を読むと解釈が広がります。

ところで、当時は大切な招待客を家に迎え入れたらまず来客の足を洗い、接吻して歓迎するのが常識なのに、44節と45節を読む限りホストのファリサイ人は主イエスに対してそのような接待をしなかったようです。つまり、ファリサイ人はイエスを心からもてなしたかったのではなく、ラビとしてのイエスを値踏みしようと思ったというような、不純な動機から食事に招いたことが察せられます。つまるところ、ファリサイ人はこの女の事はもちろんのこと、主イエスをも歓迎していないという状況が浮かび上がるのです。しかし主イエスは、こうした下心のある招待に応じるということをよくなさったのです。（例：ルカ11:37、14:1）

香油をイエスに塗る女の行為を胸中でとがめたシモン（ファリサイ人）の胸の内を察した主イエスは、借金を許した金持ちのたとえ話をしたあとで、とても明解で簡単な問いかけをしています（40-43節）。この質問は実は、シモンの行動と女の行動の動機を浮彫にするためになされました。積み重ねていた多くの罪が赦された瞬間を女がどのように体験したのかについて、ルカは触れていませんが、この体験により女は深い愛と信仰を持つ人となりました。主は、この女が赦されて今、信仰を持ったことを、この時をチャンスに人々の前で明らかになさったのです。50節の「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」の言葉によって、彼女の中にある内的な確信を公になさったのだと思います。こう追っていくと、女が流した涙は赦しを請うものではなく、もう赦されていることを実感して流れた喜びの涙だったのではないでしょうか。

私たちはどのように主に喜びと感謝を表せるでしょうか。